令和 6 年度　学校評価総括表　　学校名　生駒市立生駒南中学校　　所属長名　眞 井 英 司

Ⅰ 学校教育目標

人権尊重の精神をもった次代の担い手となる、豊かな人間性と創造性をそなえた生徒の育成

Ⅱ 前年度に残された課題

○地域とのつながりを深め、地域学校協働活動をさらに進展させる。
○保幼小中学校の連携を推進させる。
○学校が安心できる場所となるための具体的な取り組みが必要である。
○学校評価で低位にあった項目について次年度具体的な案を立て取り組む必要がある。
○生徒の自己肯定感・有用感の向上に向け、より具体的な施策が必要である。
○人権意識・道徳心の向上ため、体験学習を取り入れ、ゲストティーチャーを活用する必要がある。
○学力向上に向けて調査結果を基に具体的な改善を進めることが重要である。
○職員の資質向上のための研修会が必要（授業力・評価評定・ICT活用・生徒理解）
○働き方改革をさらに進める必要がある。校務の偏り等の解消に向けさらに検証実施する。

Ⅲ 本年度の重点課題

①確かな学力の育成（わかる授業の構築）
②地域・保護者に信頼される学校づくりの推進（学校・保護者・地域との連携）
③豊かな心（人間性）の育成
④積極的・開発的な生徒指導の推進（いじめ、相談活動等）
⑤健やかな体の育成

Ⅳ 来年度に残された課題

○地域とのつながりを深め、地域と共に地域学校協働活動をさらに進展させる。
○保幼小中学校の連携を推進させる。
○学校が安心できる場所となるための校内サポートルームをはじめとする具体的な取り組みが必要である。
○学校評価で低位にあった項目について次年度具体的な案を立て取り組む必要がある。
○生徒の自己肯定感・有用感の向上に向け、より具体的な施策が必要である。
○人権意識・道徳心の向上ため、体験学習を取り入れ、ゲストティーチャーを活用する必要がある。
○学力向上に向けて調査結果を基に授業改善を進めることが重要である。研究授業を行い、教員のスキルアップにつなげる。
○職員の資質向上のための研修会が必要（授業力・評価評定・ICT活用・生徒理解）
○働き方改革をさらに進める必要がある。校務の偏り等の解消に向け校務分掌の見直しを実施する。

【1】（重点課題番号）評価項目	[2]具体的達成目標と評価指標		[3]自己評価	[4]外部アンケートの分析			[5]自己評価			[6]学校関係者評価
	具体的に、何を、いつまでに、どの水準まで、数値化	評定	中間評価	児童生徒アンケート	保護者アンケート	評定	最終評価（成果と課題）	課題の改善策等		評価者人数
	公表日　6月25日		評価日　11月27日	実施日　12月4日	実施日　12月20日		評価日	2月12日		評価日　3月4日
			公表日　1月9日	公表日　1月9日	公表日　1月9日		公表日	3月4日		公表日
	公表方法 ☐ ホームページ ☐ 文書配布 ☐ 説明会実施 ☑ その他		公表方法 ☑ ホームページ ☐ 文書配布 ☐ 説明会実施 ☐ その他	公表方法 ☑ ホームページ ☐ 文書配布 ☐ 説明会実施 ☑ その他	公表方法 ☑ ホームページ ☐ 文書配布 ☐ 説明会実施 ☑ その他		公表方法	☑ホームページ ☐文書配布 ☐説明会実施 ☑ その他		公表方法 ☑ ホームページ ☐ 文書配布 ☐ 説明会実施 ☑ その他
①確かな学力の育成	○アンケートや授業評価をもとに、学習環境を整備し、授業に集中できる環境づくりに取り組む。【取組指標】 ○教員間での授業規律の共通理解、生徒への学習ルールの確認を行う。【取組指標】 ○アンケートで授業に集中できる環境が整っていると答える生徒の割合80%以上を目指す。【成果指標】 ○授業で積極的にICT機器を利用する。【取組指標】 ○アンケートで、授業で積極的にICT機器を利用したと答える教員の割合80%以上を目指す。【成果指標】 ○主体的・対話的で深い学びの工夫と改善。授業で生徒が認めてもらい、安心感や自己有用感を育てる指導をおこなう。【取組指標】 ○生徒にアンケート調査を実施し、自己有用感のもてる生徒の割合70%以上を目指す。【成果指標】		○教員間での授業規律の確認、生徒への学習ルールの確認を年度始めに行った。 ○11月18日～29日の期間中に「授業研究週間」を設け、授業力・指導力向上を図る予定である。 ○全国学力学習状況調査の結果を踏まえ、授業で積極的なICT機器の利用、活用をすることができていることが分かったが、教科ごとの特性により、ICT機器の使用頻度に関しては差がある。 ○夏休み期間中、前半（7月29日～30日）と後半（8月19日～21日）の合計6日学習会を開催した。昨年度より2日多く開催した。 ○授業環境について、ICT機器の利用に関してのアンケートを実施する予定である。 ○生徒を対象とした学習に関するアンケートを実施する予定である。	○生徒を対象とした学習に関するアンケートを令和7年1月に実施し、「授業中私語をなくし、集中して授業を受けることができましたか」の項目において、1年75%、2年92%、3年88%、全体平均86%の生徒が肯定的な回答をしている。 ○令和6年度全国学力・学習状況調査において、「自己有用感」の項目に関して「自分にはよいところがある」に84．6%の生徒が肯定的な回答をしている。また、学校評価アンケートでは、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」に対して1年が98%、2年が96%、3年が97%、全体で97%の生徒が肯定的な回答をしている。	○保護者を対象とした学校評価アンケートにおいて、「お子様は、大型テレビやタブレットを使った授業はわかりやすいと言っていますか」に対して、全体の94%が肯定的な回答をしている。「お子様は、学校生活が充実していると言っていますか」の項目では全体の95%が肯定的な回答をしている。		○学習環境に関して、全体の86%の生徒が肯定的な回答をしていることにより、【成果目標】の80%を達成したと言える。今後も教員、生徒を対象とした授業規律、学習ルールの確認を行い、この数値を維持しつつ、90%以上の生徒が肯定的な回答をするように授業規律、学習ルールの確認や取り組みをしていかなければならない。 ○ICTの利用に関しての教員を対象としたアンケートにおいて、100%の教員が肯定的な回答をしていることから、【成果目標】の80%を達成したと言える。また、生徒を対象とした「大型テレビやコンピュータを使った授業はわかりやすいですか」という質問に全体の98%の生徒が肯定的な回答をしている。このことから、ICT機器の使用が生徒の学習の理解につながっていることが分かる。引き続き、学習の中でICT機器を活用し、分かる授業の構築に努めていく必要がある。 ○「自己有用感」の醸成に関して、アンケートの中で「自分にはよいところがある」と肯定的に回答した生徒の割合が84．6%であった。【成果目標】の90%を下回っているので、引き続き、「自分にはよいところがある」と思える生徒の割合が90%以上になるような取り組みを継続していく必要がある。 ○「安心感」を与える取り組みに、全体で90%以上の肯定的な回答が得られているので、引き続き生徒に寄り添う指導を行っていかなければならない。	○教員間、生徒間で授業規律を再度確認、徹底し、授業に集中できる環境づくりに取り組んでいかなければならない。 ○教科の特性に応じたより効果的なICT機器の利用方法を模索していく必要がある。 ○安心できる授業づくりのために、来年度も引き続き研究授業週間などの研修を設定しなければならない。 ○教員が生徒に対して「安心感」を与えることができていると言えるが、生徒自身の「自己有用感」が低いことが課題と言える。授業や学校での生活の中で、「自己有用感」を高めていく取り組みをする必要がある。 ○来年度、社会科に於いて研究授業を実施する予定である。	○全国学力・学習状況調査で学力が低い結果が出ているのは問題である。学力向上のための取組に地域も協力する。 ○基礎学力の向上に向けて日々の授業を大切にし、新しい授業方法にも引く続き取り組んでほしい。 ○家庭と連携し、家庭教育力を高める必要性がある。 ○今後もICTなどを有効的に活用して、今の子どもたちに合った教育を行ってほしい。 ○本を読むことは大切である。読書活動を充実してほしい。
②地域・保護者に信頼される学校づくりの推進	○コミュニティスクールの推進 ・花いっぱい運動、除草作業、地域クリーンアップ活動を実施する。【取組指標】 ○地域との協働活動を推進 ・全校生徒と南小学校6年生による地域クリーンアップ活動を行う。【取組指標】 ・地域に貢献できていると感じる生徒の割合90%以上目指す【成果指標】 ・地域や保護者に協力を求め、生徒・学校職員・地域・保護者が協働で取り組める活動にする。【取組指標】 ・学校の行事に地域の方々が参加できる、開かれた学校を目指す。【取組指標】 ○保幼小中学校の連携推進 ・本校3年生の生徒と南こども園の園児の交流活動を実施する。【取組指標】		○5月24日に第1回花いっぱい運動を実施し、多数の部活動の生徒（98名）の参加、ならびに5名の地域の方に参加いただいた。 ○6月14日に第1回除草作業を実施し、多数の部活動の生徒（87名）の参加、ならびに11名の地域と保護者の方に参加いただいた。 ○7月19日に南小中学校サマースクール・茶道体験を実施し南小学校の児童（50名）の方に参加いただき、本校茶道部の生徒がお点前を披露したりお抹茶を振舞ったりした。 ○8月9日に図書館開放を実施し、地域の方や南小学校の児童、保護者の方（32名）の方に参加いただいた。 ○9月20日に第2回除草作業を実施し多数の部活動の生徒（73名）の参加、ならびに17名の地域と保護者、卒業生の方に参加いただいた。 ○3年生の生徒（40名）と南こども園との交流活動を9月13日実施することが	○生徒を対象としたアンケートで、「地域クリーンアップ活動の意義を理解し、意欲的に取り組むことができましたか」の問いに対し、93%が肯定的な回答をしている。 ○「学校の外で、地域の方にしっかり挨拶ができていますか。」の問いに対し、88%が肯定的な回答をしている。 ○令和5年度全国学力・学習状況調査において、「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した生徒の割合は61.2%であり、令和6年度全国学力・学習状況調査において、「地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思いますか」という質問に対し87%の生徒が当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答し、地域に対する意識や大切さなど	○保護者を対象としたアンケートで「お子さまは、地域の方に挨拶ができていますか」の問いに対し、94%が肯定的な回答をしている。		○コミュニティスクールの推進に関しては、計画通り年3回の学校運営協議会を生駒南小学校と合同で実施し、本校の教育方針や教育活動について熟議することができた。 ○地域学校協働活動として、花いっぱい運動を2回、除草作業を1回、地域クリーンアップ活動を生駒南小学校6年生と合同で1回実施し、多くの地域の方々や保護者の方々と協働で取り組むことができた。 ○保幼小中学校の連携推進については、9月13日（金）に中学校3年生と南こども園の園児と交流活動を実施することができた。	○来年度も本年度を踏襲することにより、年3回の学校運営協議会を開催し、生駒南小中学校合同のコミュニティスクールの基盤を固め、生駒南小中学校開校に向け取り組みたい。 ○計画通りに地域学校協働活動を実施する。また、生徒だけでなく、教職員も地域学校協働活動の意義を理解し、地域の方々と協働で活動できるようにする。	○南小中学校区は地域とのつながりが深く、いろいろな協力体制がある。今後、学校主体ではなく地域が主体となる取り組みも進めていきたい。 ○花いっぱい運動や除草作業の活動を生徒と地域の方々との交流が深まる工夫が必要である。 ○地域ボランティアの人材が高年齢化している現状があり、持続するための工夫が必要である。
③豊かな心（人間性）の育成	○いのちの時間に、出前授業や体験学習を積極的に活用する。【取組指標】 ○アンケートで、出前授業や体験学習は、有意義であったという肯定意見90%以上を目指す。【成果指標】 ○道徳の授業で年間2回学年ローテーション授業を実践し、授業研修を行い、教師の授業力向上をめざす。 【取組指標】 ○道徳の年間授業計画のもと、内容項目のバランスを考慮して授業を行う。【取組指標】 ○あらゆる教科領域を通して、自己肯定感と自己有用感を高めながら、自分の考えを表現し、相手の意見を受けとめる技能を養う。【取組指標】 ○生徒へのアンケートで、道徳の授業や人権学習の中で、心の変化を感じ、他者の多様な考えに共感することができた生徒90%を目指す。【成果指標】		○いのちの時間に、出前授業や体験学習を適宜活用している。 ○道徳の授業を計画的に実践し、校内研修を実施中である。2学期1回、3学期1回の計2回のローテーション授業を実施中である。3年生においては、2学期に2回。 ○学級活動や学校行事などすべての教育活動を通して、互いの良さを認め合い、「なかま」づくりを育成できるよう声をかけている。特に、今年度からの色別体育大会の練習において、他学年との交流を行い、縦のなかまづくりも深めている。 ○道徳の毎授業後の生徒への振り返りで、他者の多様な考えに共感することができたか確認している。 引き続き校内研修および授業の振り返りを実施し、授業力改善に生かしていく。	○「道徳の授業で、考えを深めることができた」という肯定意見は、96%であった。 ○「道徳の授業で、クラスメイトの意見や考えに共感することができた」という肯定意見は、96%で、達成することができた。	○こどもが道徳の授業で、考えを深めることができた、もしくはどちらかといえばできたと答えた保護者の割合は84%であった。		○道徳の授業で、心の変化を感じ、他者の多様な考えに共感することができた生徒は、全体の96%が肯定的な回答をしており、【成果指標】90%を達成したと言える。引き続き心の変化や他者を認め、多様な考えに共感できる授業づくりを行っていく。 ○道徳の授業を計画的に実践することができた。また、道徳の授業で、年間2回学年ローテーション授業を実践し、授業研修を行い教師の授業力向上を目指す取り組みができた。 ○学級活動や学校行事などすべての教育活動を通して、互いを尊重し、「なかま」づくりを育成できるよう今後も声かけを行っていく。 ○1年生は、外部から福祉の方を招いて、障害者理解および高齢者理解を深めた。車いす・アイマスク・高齢者疑似体験を行い、自分に何ができるのかを考えた。また、日常生活から言葉の使い方等に気をつけ、いのちの発表会で『いじめ』をテーマに発表する班もあった。 ○2年生は、国語や社会の授業等を利用して、小さな親切や税の作文などに取り組んだ。来年度の修学旅行に向けて、沖縄に関しての学習を行い、沖縄県についての知識を深めた。 ○3年生は、沖縄での修学旅行で友情を深め、班活動や学級活動を通して自主的・協力的に行動する態度を育成した。また平和学習を通して戦争の悲惨さを学び、未来のために自分達に何ができるのかを考えた。 ○生徒・保護者・教師を対象とした人権講演会を開催し、「自分らしく生きるとは？」をテーマに性の多様性について自分事として学ぶことができた。	○来年度の学校評価アンケート（生徒用）に、出前授業や体験学習は、有意義であったか。の項目を入れる。 ○道徳の授業参観や校内研究（毎学期）を行って、道徳の授業の質を向上させる。 ○あらゆる教科領域を通して、自己肯定感を高めながら、自分の考えや意見を表現し、相手の意見を受けとめる技能を養う取り組みをする。 ○学級活動や学校行事を通して、互いを尊重する心を育成しながら、「なかま」づくりができる取り組みをする。	○印象に残る先生は、スキルが高かったと思います。子どもたちの印象に残る先生になって欲しいと思います。 ○現在では、教師といった、指導する立場にある人にもカウンセリングマインドのスキルが求められている。 ○義務教育の9年間を通じて児童生徒の豊かな人間性の育成が図れるようにしてほしい。 ○学校では多様性に対する配慮がなされていると感じている。
④積極的・開発的な生徒指導の推進	○全教職員で問題行動、問題事象に対して、連携を密にし、情報共有を行い、積極的、開発的な生徒指導（あいさつ、時間厳守、服装、言葉づかい）、相談（見守り、声かけ）、また生徒の成長を促す指導、相談を行う。【取組指標】 ○教職員のアンケートで「報告・連絡・相談・確認ができましたか」の肯定意見100%を目指す。【成果指標】 ○普段の学校生活から、生徒に積極的に関わり、生徒理解に努めるとともに、ふれあいタイムや相談事には、生徒に寄り添う姿勢を持ち、柔軟に対応する。【取組指標】 ○生徒へのアンケートで、「先生は相談にのってくれる」「認めてくれる」等の肯定意見90%以上を目指す。【成果指標】 ○保護者へのアンケートで「お子様は相談にのってくれる」「認めてくれる」等の肯定意見80%以上を目指す。【成果指標】 ○全教職員が情報共有を行い、生徒にとって「安心できる居場所」を作ること意識する。また、オンライン授業や別室登校など柔軟な対応を行う。【取組指標】 ○学校や家庭、地域の方々に対して、挨拶をすることの大切さを全校集会や朝の会、学活などを通じて、全教職員で声をかけ、意識づける。【取組指標】 ○生徒へのアンケートで、「自ら進んで挨拶ができている」い う肯定意見90%以上を目指す。【成果指標】 ○学校のルール（生徒心得）を守り、学校生活を送る上で基本的な習慣を身につけさせる。【取組指標】 ○生徒へのアンケートで、「学校のルールを守っている」という肯定意見90%以上を目指す。【成果指標】 ○生徒へのアンケートで、「相手や場に応じた行動や言葉づかいができていますか」という肯定意見85%以上を目指す。【成果指標】 ○生徒へのアンケートで、「いじめはどんな理由があってもいけない」という意見100%を目指す。【成果指標】		○教職員で、生徒を見守り、朝の登校、昼休み、下校指導などで、声をかけている。 ○学校生活の様々な場面で、教師が生徒に積極的に関わり、信頼関係を構築中である。 ○生徒指導講演会では、弁護士の方から、身近に潜む犯罪についての話を聞き、生徒の規範意識の醸成に繋がった。 ○問題行動や気になる様子、小さな変化があれば、その内容を職員会議や生徒指導部会など、教職員の中で情報を共有し、生徒理解に努めている ○全教職員が常日頃から、生徒の声に耳を傾け、話を聞くようにしている。 ○ふれあいタイムのアンケートを行い、その内容を通して、生徒からの話を聞く。時間と場所を確保し、相談になるように、生徒の気持ちに寄り添うスタンスで取り組む。 ○オンライン授業も活用し、生徒が安心して授業を受ける環境を整えている。また、生徒一人一人に柔軟な対応を行い、少しでも登校できるように工夫している。 ○全校集会、朝の会、帰りの会、学活などを通して、場に応じた挨拶や行動、態度などを生徒に指導している。 ○「生徒心得」を意識させ、基本的な習慣を身につけた上で、より充実した学校生活を目指すように声をかけている。 ○いじめアンケートは、毎学期行う。 ○いじめ事象に関わっては、聞き取りを丁寧に行い、初期対応の大切さを意識し、生徒の安全を確保するようにしている。。 ○2学期にはSNSの使い方について、全校生徒対象にスマホ教室を実施した。	○「先生は相談にのってくれる」「認めてくれる」等の肯定意見は97%で達成している。 ○「自ら進んで挨拶ができている」の肯定意見は88%で概ね達成している。 ○「学校のルールを守っている」という肯定意見は93%で達成している。 ○「相手や場に応じた行動や言葉づかいができていますか」という肯定意見は88%で達成している。 ○「いじめはどんな理由があってもいけない」という意見は、98%で、ほぼ達成している。	○「先生へ相談ができた」「よいところを伸ばしている」というアンケートでは、85%以上の保護者が肯定的な回答をしている。 ○「学校のルール」「相手や場に応じた行動や言葉遣い」のアンケートでは、80%以上の保護者が肯定的な回答をしている。 ○いじめについてのアンケートでは、95%以上の保護者がいじめのない学校づくりをしていると回答している。		○「生徒心得」、学校のルールを守る、挨拶を行う、場に応じた行動や言葉遣いなど、生徒指導上での基本的な生徒の意識について、全教職員で指導した。今後、生徒の規範意識の向上を図るため、特に場に応じた行動や言葉遣いについては、全教職員で声掛け、指導を行っていく必要がある。 ○積極的、開発的な生徒指導（あいさつ、時間厳守、服装、言葉つかい）について、今年度は、大きな事故、トラブルがなく、十分に機能した。 ○ふれあいタイムを含めた日頃の生徒からの相談について、全教職員で対応する体制を作り、生徒に寄り添うことができた。 ○毎学期行ったいじめアンケートの結果を経て、生徒への事前指導、事後指導、アプローチなどを、より丁寧に行っていくことが必要である。さらに、常日頃から、生徒の様子を見守り、学活や朝の会、帰りの会等で学年、担任の思いを伝えることも継続的に行う。 ○報告、連絡、相談、確認について、100%の教職員が肯定的に回答している。引き続き、生徒の様子の変化に常に気付く意識を持ち、教職員間の連携、情報共有を確実に行うことを意識する。生徒指導事象が起こった場合に、誰でも初期対応を行うことができる体制を作る。 ○日頃からスマホ、SNSの使い方などについて指導している。全学年対象に生徒指導講演会やスマホ教室を行い、生徒の意識も高まった。 ○交通安全教室などを行い、生徒の自転車の乗り方のマナーなどについて指導した。来年度も引き続き、行う予定である。 ○オンライン授業や別室登校の対応を行い、「安心できる居場所」を作ることを心掛けたが、別室登校はうまく機能しなかった。 ○問題行動や気になる様子、小さな変化があれば、生徒からの話を聞くことに徹した。また、その内容を、その都度、学年を中心に情報共有を行い、職員会議や生徒指導部会など全体での生徒理解にも努めた。	○全校集会、朝の会、帰りの会、学活などを通して、学校のルールの在り方や、場に応じた行動や言葉遣い、挨拶について、全教職員が同じ方向で継続的に指導していく。 ○生徒の相談に対して、教職員が生徒に寄り添うスタンスで進め、生徒の想いを聞き、両者（担任、生徒）にとって、有意義な時間にする。学校生活のすべての時間で生徒の様子を把握し、適時声掛けを行い、生徒がいつでも相談できる体制を作る。 ○来年度も、いじめアンケートを学期ごとに行い、いじめの芽に気づく環境を作り、普段から生徒の様子を丁寧に把握する。また情報共有を確実に丁寧に行う。 ○登校指導、休み時間、昼休みの見守り、下校指導など、生徒の見守りを、継続的に全職員で取り組むとともに、生徒理解の意識を高める。 ○生徒の実態を把握するとともに、学校に登校しやすい環境を全教職員で整えていくことが課題である。 ○問題行動に対して、教職員で連携をとり、指導を行うことができた。一人の教職員が抱えるのではなく、職員会議や生徒指導部会でも情報共有を行い、より丁寧な生徒指導へとつなげていく。また、初期対応についても、教職員で連携を取り、学校全体で対応する。 ○問題行動になる前段階での気づきを大切にしていくためにも、担任、学年担当、教科担当が意識をして、生徒の様子を確認して、情報共有を行う。	○校内サポートルームを充実したものとし、不登校児童生徒に対する対応をしっかりとする。 ○いじめに対しての子どもたちへのアプローチを今後も行い、安心して学校生活を送れる取組と体制づくりをお願いしたい。 ○アンケート結果が昨年と比較して良い結果になっているのは、先生方の手厚い対応によるものと聞き、今後も継続して対応していただきたい。 ○引き続き、ネットワーク機器の利用やSNSなどのトラブルについて、保護者と連携して取り組んでいただきたい。
⑤健やかな体の育成	○すべての教職員が率先して清掃活動を行うと共に、委員会活動や学級の当番活動に責任をもって取り組ませ、美化意識の向上に努める。【取組指標】 ○清掃道具の点検を定期的に行い、校内環境の美化に努める。【取組指標】 ○清掃活動に積極的に取り組んでいるという教師・生徒の割合80%以上をめざす。【成果指標】 ○教科学習や部活動指導などを通し、心と体の健康に関心を持ち、生涯を通じて健康な生活を送ることができる基礎的な力を培う。【取組指標】 ○学校保健委員会の1月実施に向けて、関係機関と連携を取りながら準備を進める。【取組指標】 ○「積極的に体力づくり・健康づくりに努めた」生徒の肯定的意見80%以上をめざす。【成果指標】 ○教科学習や給食指導・委員会活動などを通して、「食」の大切さや楽しさ、マナーなどを意識させる。【取組指標】 ○手洗い・消毒・マスク着用など衛生的な習慣を徹底させる。 ○給食配膳時のエプロン・三角巾の着用の徹底。【取組指標】 ○給食の残食が多いので、いのちの授業等を利用して食育の取り組みを進める。【取組指標】 ○「給食は、手洗い・消毒など、マナーを守って食べるようにしている」という肯定的意見80%以上をめざす。【成果指標】 ○給食配膳時のエプロン【成果指標】・三角巾着用率100%を目指す。 ○各クラスの残食ゼロを目指す。 【成果指標】		○通常清掃においては、時間に遅れることなく、早くから清掃場所に行き、清掃活動に取り組んでいる生徒が多い。 ○1学期の終わりに、生活委員会で清掃用具の点検、ワックスがけ、南館の清掃を行った。 ○保健体育の授業や体育大会の練習、部活動などを通して、体力向上の機会を確保できている。 ○給食前の手洗い・消毒はほぼ徹底できている。 ○給食配膳時のエプロン・三角巾の着用は徹底できている。また、給食配膳時のマスク着用を徹底していく。 ○給食センターの方に来てもらい、1，2年生を対象に食育の話をしていただいた。	○日常の清掃活動において、生徒・教師の90%以上が意欲的に取り組んでいると回答している。 ○給食前の手洗いなどの衛生面においては、肯定的な意見が生徒全体で98%であり、全体的に高い意識をもって取り組めている。 ○積極的な体力づくり・健康づくりについての肯定的回答が、昨年度は生徒全体で76%であったが、今年はさらに下回って72%となっている。	○生徒の清掃活動において、保護者の90%以上が意欲的に取り組めていると回答している。 ○生徒の積極的な体力づくり・健康づくりについて、保護者の肯定的な回答が、76%となっている。		○日常の清掃活動においては、生徒・教師ともに意欲的に取り組むことで、校内の環境美化が維持されており、その取り組みは保護者にも評価されている。 ○生活委員会の生徒を中心に、教室のワックスがけ・清掃用具の点検を行った。 ○学校保健委員会を1月に実施した。 ○給食時の手洗い・消毒などの衛生的な生活習慣については、ほぼ達成することができた。 ○給食配膳時のエプロン・三角巾については全学年ほぼ着用することができている。 ○体力づくり・健康づくりについて、授業等で体力向上の機会は確保できているが、自ら進んで運動をするという習慣はあまりない。	○給食配膳時のエプロン・三角巾の着用を徹底。 ○給食の残食があるので、いのちの授業等を利用して食育の取り組みができないか。また、今年度1,2年生で実施した、給食センターの方に来校してもらっての食育の話を継続して実施したい。 ○清掃用具の点検・交換・補充 ○体力づくり・健康づくりにおいて、できないことができるようになること、みんなで一つのことを達成する楽しさを感じられるようなレクリエーションなどの取り組みをする。	○体力づくり・健康づくりにおいて、さらなる運動の機会の確保が必要である。 ○みんなで一つのことを達成する楽しさを感じられるようなレクリエーションなどの取り組みを行っていただきたい。